



モユク★カムイ 57

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エンタヌキ」のことです。

MAR 2000

あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その18 白黒だけがパンダじゃないよ
レッサーパンダ 2.3

特集

北海道産野生動物の
落とし物 4.5

飼育研究レポート 6

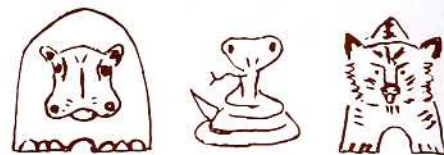
動物園事情
動物病院VETニュース 7

クイズ
できごと
飼育動物数
編集後記 8

シセンレッサーパンダ
Ailurus fulgens styani



ぼくは、動物大使



その18 白黒だけがパンダじゃないよ レッサーパンダ

シセンレッサーパンダ

Ailurus fulgens sfyani

ヒマラヤから中国南部の標高2200～4800メートルにある竹林や、木のまばらな林に生息。子育てや、交尾期以外は単独で生活しています。人に発見されてから、まだ60年くらいしか経っていません。野生では中国やネパールの国立公園や保護区で手厚く守られていますが、やはり森林伐採などで環境が悪化し、生息地が狭められています。パンダと聞くと白と黒のジャイアントパンダがあまりにも有名ですが、それに負けないくらい美しく可愛くてとても人気のある動物です。

旭山ZOOのパンダファミリー



ヤン ヤン
♂陽 陽
1992年6月19日
鯖江市
西山動物園生まれ



チャオチャオ
♀朝 朝
1991年6月18日
鯖江市
西山動物園生まれ



子どもたち
1999年6月27日
旭山動物園生まれ

体

体長50～60cm
体重3～5kgくらい

食物

雑食性。笹やタケノコ、竹の葉、木の実や果実などを好んで食べるが、卵や昆虫、肉も食べることもある。

爪

鋭いカギ爪で、木登りも上手。

手足

手足の裏にも毛が生えていて、濡れた木の上でも滑りづらい。

6本指？

パンダの手には「第六の指」といわれる突起物があります。これは手首の骨の一つ、種子骨が大きく発達したもので、5本の指に対向してついていて、この骨を親指のように使うことで、パンダは前足で物を上手につかむことができます。



ネパールからアッサムまでのヒマラヤにすむネパールレッサーパンダと、ミャンマー北部から中国南部（雲南省・四川省）にすむシンセレッサーパンダの2亜種に分けられます。ネパールレッサーパンダは毛色が薄く全体的に白っぽい体をしています。

日本の動物園で飼育されているレッサーパンダのほとんどは、シンセレッサーパンダです。

生活

完全な夜行性ではないが、日中はほとんど木の上などで休み、早朝や夕方に活発に動く。

毛

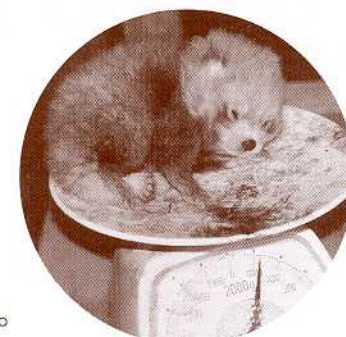
背中が栗色、お腹は黒、顔には白い部分がある。

尾

長くて、しま模様がある。樹上では尾でバランスをとり、寝るときはまくらになる。

赤ちゃん

体重100～から150g。毛は生えているが、目は見えない。1年半くらいで大人になる。

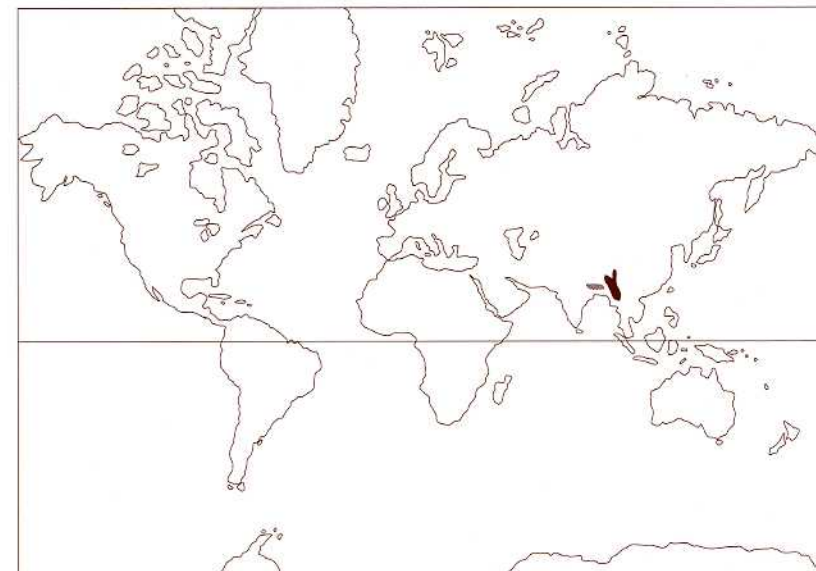


体重測定中でちゅ。

出産

1産1～4子。普通は2子。

レッサーパンダの分布



■ネパールレッサーパンダ ■シンセレッサーパンダ

パンダの分類

今ではパンダといえば、ジャイアントパンダのことを指すようになりましたが、もともとはネパールの人たちがレッサーパンダのことを「ニャアラパンダ」と呼んでいたので、パンダとは実はレッサーパンダのことだったのです。

分類は様々あり、次の3つが代表的な説です。

1. ジャイアントパンダもレッサーパンダもパンダ科。
 2. ジャイアントパンダはパンダ科、レッサーパンダはアライグマ科。
 3. ジャイアントパンダはクマ科、レッサーパンダはアライグマ科。
- 旭山動物園では一般的な行動や、前足にある突起（第六の指）などの特徴から、第1の説を採用しています。

北海道産 野生動物の落とし物

私たちがすむ北海道には多くの野生動物が生息しています。とは言っても、いつでもどこでも彼らに会えるわけではありません。でも、真っ白な雪原の上のびる1本の足跡で、どの動物が何をしていたのか？歩いていたのか？走っていたのか？あそこで立ち止まったんだ！など、いろいろな行動を教えてください。そんなことを想像しながら足跡を見ていると何かその動物に出会えたような気持ちになるものです。

そこで今回の特集は、北海道を代表する6つの動物たちの足跡や糞、食べあとなど動物たちが残していった様々な落とし物をちょこっとだけ拾い集めてみましょう。



キタキツネ

足跡は犬とよく似ています。違いは犬の方が横幅が広く、キツネは縦長。またキツネは犬より胸の幅が狭いため、左右の足をほぼ一直線上におきます。それに前足の跡に後ろ足を重ねるので、直線に並んだ点になります。(歩行時)



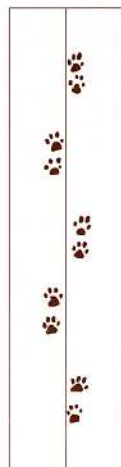
エゾタヌキ

キツネとは対称的で足跡は丸くて左右に離れます。またタヌキは決まった場所に糞をする「ため糞」をします。それぞれ数カ所の糞場をもち、同じ場所を数頭で共有していることが多く、お互いの情報交換やコミュニケーションの場でもあります。



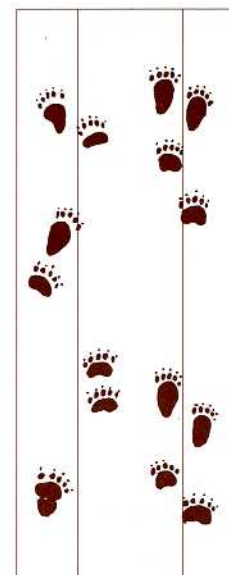
エゾリス

地上ではピョンピョン跳ねる跳躍歩行です。一見大きい足跡が前足に見えますが、小さい方が前足です。リスとネズミのクルミの食べ方を比べてみましょう。リスは真っ二つに、ネズミは穴をあけて食べるので、簡単に見分けられます。

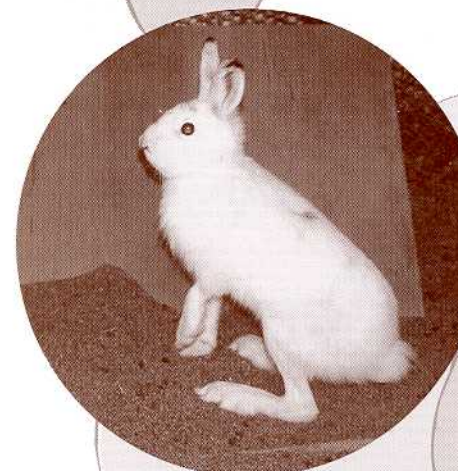


エゾヒグマ

北海道1、いや国内最大の野生動物です。足跡も大きく、平均で後ろ足長さ21cm、幅13cmと超特大！この足跡には遭遇したくないものです。ヒグマの後ろ足のつき方はヒトと同じで、つま先からかかとまでびったり地面につける「蹠行性」と呼ばれる歩き方です。足跡の他にヒグマは、木に爪痕を残します。これは木に登るときについたものと、なわばりを示すマーキングのために意図的につけられたものがあります。また、背中を木にこすりつけて体臭を残すマーキング方法もあります。爪痕と残り香はヒグマの表札なのです。

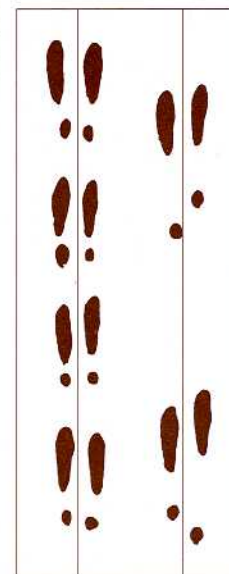


歩行 走行



エゾユキウサギ

リスと同じ跳躍歩行なので大きい足跡が後ろ足です。ウサギの足跡をたどっていくと、突然足跡が消えていることがあります。これは「とめ足」と言われ自分の足跡の上を上手にたどって数歩戻り、左右どちらかにジャンプし方向転換をします。キツネやテンなどをまくための行動では？と言われています。

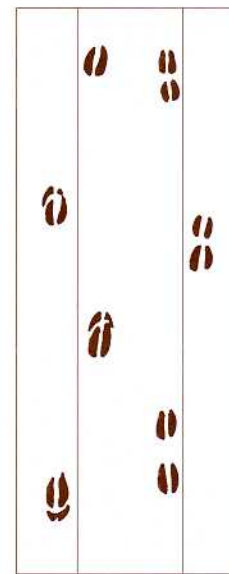


歩行 走行



エゾシカ

北海道にすむ野生の偶蹄目はエゾシカだけです。ひづめは細長く、前後の大きさはほぼ同じです。足跡は前足跡の上に後ろ足跡を重ねて歩きます。餌の乏しい冬の間、エゾシカは樹皮をかじりって食べます。まる裸の木があれば、それはエゾシカがウサギ・ネズミの仕業です。オスの特徴である角は、秋まで皮膜に包まれています。それをはぎ取るため木にこすり付けて硬い角をとく「角こすり」の跡も見られます。



歩行 速歩

参考文献

北海道野生動物の痕跡を読む
新アニマルトラックハンドブック
フィールドガイド足跡図鑑

今泉 忠明
子安 和弘

北海道新聞社
自由国民社
日経サイエンス社

※足跡は実物大です。



飼育研究レポート

おとしの4月に飼育係になり、早いもので2度目の閉園を迎えました。動物のことなどほとんど知らずに飼育係になったので、見ることも、聞くことも全てが初めてのことで、あっという間に1年が過ぎていきました。

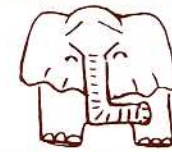
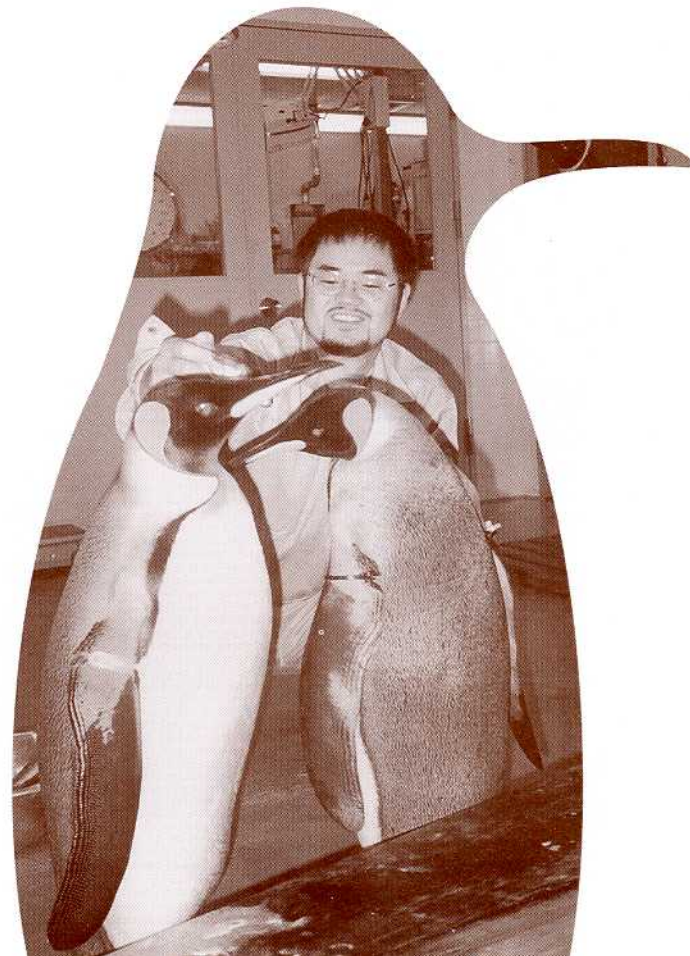
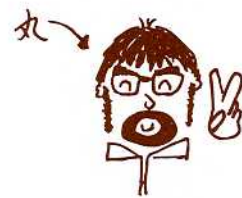
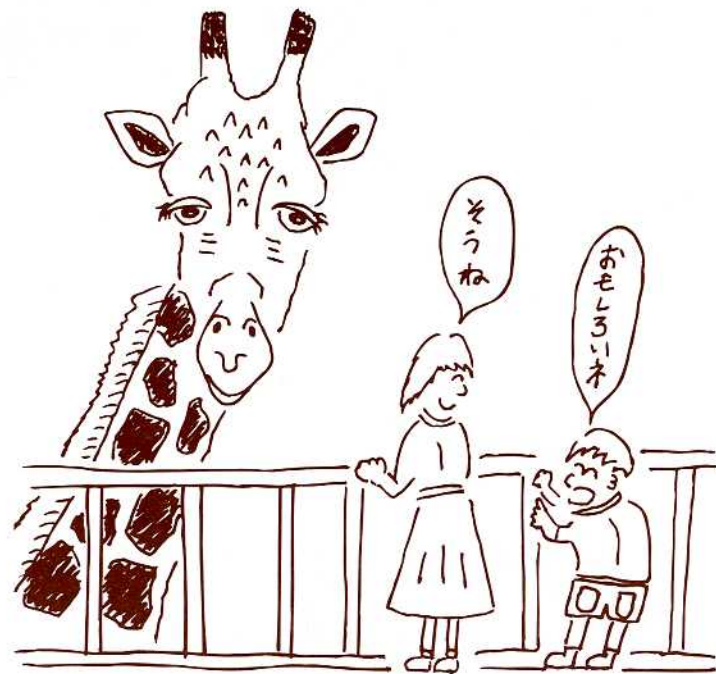
2年目の去年はキリン、ツル・キジ類の担当になりました。みんなで自分の担当動物の展示を工夫しようということになり、私は「そういえばキリンが餌を食べているときは、いつも後ろ姿だなあ」と思い、アイデアを膨らませました。キリンの主食は木の葉で、45cmもある舌を伸ばして、木の枝に巻きつけ葉をしごきとって食べます。どうせなら、キリンが舌を伸ばして餌を食べている様子を見てもらおうと思い、透明な板と木を使い餌箱を作り、来園者のみなさんから見える位置に付けることにしました。大工仕事が苦手の私は、大工仕事の得意な二人の先輩に手伝ってもらい、製作に約4時間をかけて餌箱ができました。

早速翌日の朝、餌箱を設置し草を入れ、オスのキリン、タミオを放飼場に出してみます。扉を開けると、タミオはいつものように外に出て行きましたが、今まで何もなかったところに見たことのないものがあるのに気づき、走りながら一目散に部屋へ戻って行きました。このようにキリンはとても神経質な動物です。しかし、2、3日すると餌箱には慣れたようですが餌を食べてくれず、去年まで使っていた古い餌箱に近づいていき、「餌入ってないよー!!」と訴えるような目で、こちらを見ています。

そして、ある日いつものように新しい餌箱に餌を入れ、「今日こそ食べてくれよ」と思いながらタミオを見ていると、こちらに近づいてきて舌を伸ばして餌を食べてくれました。この餌箱をつけたことで、餌を食べる様子だけでなく、キリンの顔も間近で見られるようになりました。開園中、餌を入れにいった時「面白いね」と声をかけてもらったり、小さなお子さんが餌を食べているところを見て喜んでのを見ると、飼育係員に尽きるというか、「この仕事をしていて良かったな」と思います。

今年の秋頃には新しくアツと驚くようなペンギン館ができます。実は、それに先駆けて2羽のキングペンギンを動物園のある一室で飼育していて、ペンギンの世話をしています。たまに園内を散歩させているので、運が良ければよちよち歩くペンギンに会えるかもしれません。

これからも、もっと楽しく動物を見てもらえるように、日々努力していきたいと思っています。(丸)



動物園事情



動物園の役割 その5 『野生復帰』

野生復帰という言葉に耳にする機会も多いと思うが、これは、“野生動物”を自然界に戻すことを言う。ウサギやカメなどのペットを山や川に放すことは根本的に違う。傷ついて保護された野生動物を放すこともあるし、生きていくためには危険となってしまった場所から安全な場所へ移動することもある。また、野生ですでに絶滅してしまった動物を飼育下で繁殖させ、現地へ放す場合もある。いずれにしても放された動物が生きていける環境があるかどうか、動物を放すことで新たな問題が起きないかどうかなど、実際の野生復帰に至るまでには多くの課題を解決する必要がある。

前回、動物園の役割として「希少動物の種の保存」を挙げた。それは、野生動物の生息地が広範囲に失われ、生息地だけの保護では絶滅してしまう危険性があるとき、その動物が動物園で飼育飼育されていれば、生息地の自然環境が復元された後で、動物園から野生へ戻してやるができるということだ。つまり、種の保存の最終目的は保存された個体を使用して野生復帰をさせることにある。

身近な例を挙げてみよう。今、二世誕生に沸いているトキだが、日本の朱鷺はオスの“きん”1羽になってしまい実質的には絶滅してしまった。そこで中国からトキが贈られてきたわけだが、もし、トキが国内にまだ生息しているうちに、動物園で飼育していたとしたらどうであっただろうか。おそらくトキは繁殖し多くの動物園で飼育されているので、野生のトキが絶滅を迎える前に、動物園で繁殖した個体を放すことによって、野生の群れを維持してやることはできたはずだ。何を言っても「とぎすでに遅し」だが…。

動物園では、トキの二の舞とならないように、多くの団体や研究者と共同しながら、野生復帰技術の確立へ向けて研究を開始した。現実には絶滅が目の前に迫ってから取り組んでも絶対間に合わない。今のうちに研究を重ね、万が一の危険に備えるのも動物園の果たすべき大きな役割なのだ。



動物病院VETニュース - カリスマ獣医師への道 -



99年 動物病院生死のドラマーウサギからキリンまで

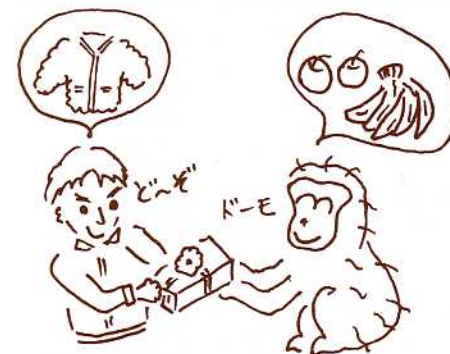
昨年はウサギ年のせいかな？ウサギが動物病院で繰り広げられるドラマの主人公となることが多かった、と思います。例えば、歯並び・咬合の異常、鼻かぜ、ケンカによる外傷、皮膚炎など・・・人間でいうならばそれぞれ、歯科・口腔外科、内科・耳鼻咽喉科、外科、皮膚科の診療です。ここでは、脳神経外科のお話を一つ取り上げます。今年の春、2頭の子ウサギが旋回したり、転んだりという神経症状を出して診察しましたが、治療のかいなく、衰弱死しました。生前、病院で行った検査からは確定診断を下すことができなかったため、死後、病理検査を実施したところ、脳からエンセファリトゾーンという寄生虫が見つかりました。この病気は欧米では広く認知されており、血清学的検査によって、感染しているかどうか推測することが可能ですが、国内では生前診断がまだ困難で、治療法も確立されていません。日本中のウサギとその飼主のためにも、まず、検査法の開発、次に治療法の確立が期待されるところであり、現在検討中です。

次に、麻酔科からのお話ですが、道内でもほとんど例のないキリンの麻酔の試みです。初夏の頃、マーナの蹄が伸びすぎて、立ってられないほどになってしまいました。キリンのような大きい動物が立てなくなれば、残された道は死です。僕たちは、マーナを助けるんだという一心で、難しいキリンの麻酔に挑みました。大がかりで入念な計画のもと、当日はスタッフ一丸となり、何とか成功を収めました。反省点も多かったのですが、スタッフみんなの心にはやればできるという達成感を得ました。しかし、マーナの蹄が再び悪化したのは1ヶ月後の7月27日で、2回目

の麻酔を行いました。起立することなく、息をひきとりました。残念な結果となってしまい、みんなショックから立ち直るのに時間がかかりましたが、今回のマーナと僕たちとのドラマは必ず次につながる経験であり、歴史に大変貴重な1ページを刻みました。

7月25日、新さる山がオープンしましたが、毛のないハゲザルを見たことがありますか？寒い旭川の冬をもう少し温かく暮らせるように、毛をプレゼントしたい・・・この願いをかなえるために、現在、市立旭川病院検査科の先生に協力してもらい、原因を調査中です。何か発見があれば、みんなフサフサでポカポカあったかなサル山が見られることでしょう。

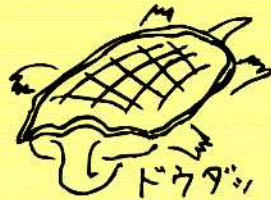
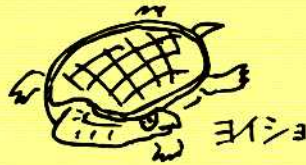
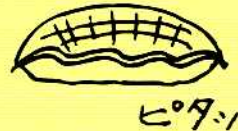
僕らの旭山動物園では、他にもさまざまなドラマが今までも今日からもずっと展開し続けます。ドラマの登場動物たちに・・・ありがとう！そして、2000年もよろしく！



クイズ

旭山動物園で飼育されている「ヘビクビガメ」名前のとおり首がヘビのように長いのだ。さて、このカメもこうらの中に首をかくすことができるのだが、みなさんが知っているイシガメやアカミミガメ(ミドリガメと呼ばれている)とは少し違った方法で首をかくすのだ。では、その方法とは次のうちどれでしょう？

1. こうらがのびて、それでふたをする。
2. 首を体の横にたおしてかくす。
3. 首をこうらと地面の間にもぐり込ませる。



56号の当選者

56号の正解は1番でした。
札幌市 河野 友美さん
当麻町 長谷川 麻衣さん

正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製エゾシカの角キーホルダーが当たります。

応募方法はハガキに答と住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、旭山動物園モユク・カムイ係までお送り下さい。応募〆切

2000年5月31日

主なできごと

- 7月 27日 キリン削蹄のため麻酔(2回目)作業終了後死亡
- 23日 オセロット変形性脊椎症 麻酔 X-ray 投薬
- 25日 さる山オープン
- 8月1~3日 サマースクール 小学校5/6年生35名参加
- 3日 エゾシカ皮下膿瘍 切開排膿手術
- 8・15日 親子動物教室(飼育体験)
- 22日 カピバラ右上腕骨骨折 手術 8/24死亡
- 26日 ライオン出産(4頭)
- 9月 16日 オオコノハズク 石川県いしかわ動物園に寄贈
- 18日 オオコノハズク 仙台市八木山動物公園に寄贈
- 22日 シベリアオオヤマネコ 頬部膿瘍 麻酔手術 翌日死亡
- 10月 6日 アムールヒョウ出産 翌日死亡確認
- 6・7日 北海道ブロック飼育技術者研究会(稚内市立ノシップ寒流水族館)「給餌台を用いたキツツキの採食行動について」発表
- 10日 ライオン一般公開
- 17日 閉園
- さよならゲーム大会(雨天のため動物園裏側探検)
- 26日 エゾリス登別クマ牧場に寄贈
- カピバラ秋田市大森山動物園に寄贈
- 11月 3日 マガン 膝関節脱臼手術
- 5日 カピバラ骨折手術後予後不良で安楽死
- 10日 キングペンギン動物交換で来園
- 12日 冬期無料開放開始
- 20日・21日 第20回動物臨床医学会「カイウサギに見られた顕性及び不顕性エンセファリトゾーン症の10例」発表
- 21日・28日 アカクビワラビー♀断脚手術



みんなでおさんぽ中!

飼育動物数

(1月31日現在)

ほ乳類	51種	179点
鳥類	99種	536点
爬虫類	13種	49点
合計	163種	764点

編集後記

新「さる山」のオープン、ペンギン館の設計、冬期無料開放の実施など今年度もたくさんのチャレンジをしています。ここがゴールという終着点はきっとないから、これからも動物園がある限りチャレンジは続きます。立ち止まらずに常に前向き、これはけっこうパワーが必要です。みなさん動物園に来て下さい。これが僕たちのパワーの源です。

モユク・カムイ No.57 平成12年3月31日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
発行 小菅 正夫 <http://www.arc-net.co.jp/kodoka/shoukou2/sc02.html>
編集委員 中田 真一・坂東 元
印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653